

誠和会

山本 邦男
山本 義一
古川 宏史
北村 新司
横田 義和
中田 眞司

代表
質問
北村 新司

◆平成16年度予算編成について

問 重点施策について。

市長 主な重点施策は、「都市基盤の整備」として、八街駅北側地区土地地区画整理事業、八街駅自由通路等整備事業、大池調整池整備事業等を引き続き推進し、道路維持補修事業は、予算の充実に努めました。「住みよい生活環境の形成」として、家庭用小型合併浄化槽設置整備事業、不法投棄監視対策などを引き続き推進し、防犯灯設置事業は予算の充実に努めました。「新しい産業の育成」として、園芸用廃プラスチック適正処理事業、環境保全型土づくり対策事業、北総中央用水都市改良事業推進事

業、商店街振興事業などを引き続き推進します。

「豊かな人間性を育む市民文化の創造」として、英語指導助手派遣事業、育て八街っ子推進事業、小中学校の施設整備・備品整備に加え、八街中央中学校校舎改築事業を実施します。「福祉の充実」として、障害者福祉、高齢者福祉、児童福祉等の各種福祉事業を引き続き推進し、乳がん検診は、50歳以上を対象としたマンモグラフィによる検診を新規に導入します。さらに二州第一保育園の建て替えを実施し、交進学区に児童クラブを整備します。

問 経費の節減努力の取り組みについて。

市長 平成16年度予算編成では、要求基準の設定、事務事業の見直しにより経費の節減合理化に努め、事務事業については費用対効果の分析や執行方法等について総点検を実施しました。今後さらさら事務事業の見直しを強力に推進するなど、経費の節減合理化を図りながら、引き続き持続可能な財政運営に努めます。

業、商店街振興事業などを引き続き推進します。「豊かな人間性を育む市民文化の創造」として、英語指導助手派遣事業、育て八街っ子推進事業、小中学校の施設整備・備品整備に加え、八街中央中学校校舎改築事業を実施します。「福祉の充実」として、障害者福祉、高齢者福祉、児童福祉等の各種福祉事業を引き続き推進し、乳がん検診は、50歳以上を対象としたマンモグラフィによる検診を新規に導入します。さらに二州第一保育園の建て替えを実施し、交進学区に児童クラブを整備します。

◆八街幹部交番の移転について

問 佐倉警察署八街幹部交番の移転の進捗状況について。また、八街市の治安対策について。

市長 八街駅北側地区土地地区画整理事業の計画では、平成17年度から18年度にかけて八街幹部交番を換地先へ移転することになっていますが、換地先に移転する場合は、敷地面積は減歩により現在の面積より約10%程度削減され、一層狭くなるため、事業区域外へ移転することについて検討するよう、佐倉警察署長に対して要望を行い、引き続き関係機関へ働きかけます。また、治安対策は、警察や防犯組合などと連携を図り、街頭啓発、防犯パトロール、歳末警戒などの他防犯灯の数を増やすなどして犯罪を未然に防止できるように対策を講じています。

◆児童クラブについて

問 交進学区の児童クラブの開設について。

市長 平成16年9月からの開始で、設置場所は交進小学校裏側の障害児あずかり

施設「ぶらんこ」の隣を予定しています。



▲県道神門・八街線豚市場付近

◆道路問題について

問 県道神門・八街線の経済連豚市場付近の歩道整備計画について。

市長 経済連豚市場付近を含む五区稲荷神社方面は、印旛土木事務所によると、歩道整備の具体的な計画はないとのことですが、市としては県に対し引き続き整備されるよう要望したい。

問 主要市道の舗装改良計画について。

市長 主要市道の舗装改良計画は、引き続き市道223号線、市道115号線及

び富山・大関間の市道文違1号線の整備を進め、新たに笹引一休前交差点から川上小学校へ向かう市道114号線の歩道整備を含めた道路改良事業を計画し、また、補助幹線道路である市道四木28号線も、道路幅員の狭い一部区間について道路改良を予定しています。

問 八街市特産の落花生や主要野菜の更なる産地化について。

問 通学路の危険な個所の点検について。

教育長 学校の職員やPTAが協力体制を整え、定期的に安全点検を行い、道路の改善等の必要がある場合、関係各課と連絡を取り合いながらニーズに対応するようにしています。また、通学路点検に基づき、危険箇所等を示した安全マップを作成し、校内に掲示したり、保護者に配布したりしている学校もあります。

市長 落花生を取り巻く情勢はますます厳しくなる中、今後も産地としての銘柄を保持していくためには、品質の向上、生産の安定、流通体制の再編、消費の拡大を図ることが重要と考えています。市としても、落花生種子更新事業として千葉半立の種子購入費の一部を補助しており、今後も落花生生産地として取り組みたい。

◆農業振興について

問 八街の農業の将来構想について。

市長 農業の現状として兼業農家への移行や担い手の高齢化、後継者不足の進行、また農地の減少や分散化が進むなど、これに伴う営農環境の悪化が深刻になっています。このため、土地利

用の誘導、規制を強めながら都市的地域と農業的地域の区分を図り、まとまった優良農地を保全していくとともに、本市の生産基盤の最大の課題である農業用水の安定確保と排水整備を進め、生産基盤の強化を推進したい。

主要野菜は、市の農業構造と生産基盤を総合的に考慮しながら適切な補助事業を導入し、土づくり環境保全型農業の実施による環境に配慮した持続的な農業を基本に据え、安全かつ高品質な野菜の安定生産に向けた施設、機械の導入と整備を重点的に支援したい。